

聖霊降臨後第4主日特祷（特定6）

あなたを愛する者のために、人の思いに過ぎた良い賜物を備えてくださる神よ、どうかわたしたちに何ものよりもあなたを愛する心を得させ、わたしたちの望みうるすべてにまさる約束のものを与えてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 エゼキエル書 31章1節～6節、10節～14節

31:1 第十一年の第三の月の一日に、主の言葉が私に臨んだ。2 「人の子よ、エジプトの王ファラオとその軍勢に言いなさい。あなたの偉大さは、誰に比べられようか。3 まさに、あなたは糸杉、レバノンの杉だ。枝は美しく、森に木陰を作り、背は高く、その梢は雲の中にあった。4 水がこれを育て、深淵が背を高くした。川が植えられたものの周りを流れ、その流れを野のすべての木に送った。5 こうして、その丈はすべての野の木よりも高くなり、送られた豊かな水によって、小枝は茂り、大枝は長く伸びた。6 小枝にはあらゆる空の鳥が巣を作り、大枝の下ではあらゆる野の獣が子を産み、木陰には多くの国民が皆住み着いた。

31:10 それゆえ、主なる神はこう言われる。この木は背が高くなり、梢を雲の中に伸ばし、高さゆえに心が高慢になったので、11 私は彼を諸国民の有力者の手に渡した。その者は彼をその悪に応じて厳しく扱う。私は彼を追放した。12 諸国民の中の最も凶暴な他国の民が彼を切り倒し、山々に捨てた。その枝はすべての谷に落ち、その大枝は地のあらゆる涸れ谷で砕かれた。地のすべての民はその木陰を離れ、彼を見捨てた。13 その倒れた幹に、あらゆる空の鳥が宿り、大枝に、あらゆる野の獣が住み着くようになる。14 それは、水辺のすべての木が高くならず、その梢を雲の中に伸ばせず、また水に潤う木々が自らを頼んで高ぶることがないためである。これらすべては死に渡され、地の底、人の子らの間、穴に落ちていく者のところに行くからだ。

詩編 第92篇

- 1 主をたたえることは良いこと // いと高き方のみ名をほめ歌うことはすばらしい
- 2 朝にあなたの慈しみを // タベにまことを宣べ伝え
- 3 豎琴を奏で、樂の音に合わせて // わたしはあなたをほめ歌う
- 4 主よ、あなたのみ業はわたしを喜ばせ // み手の業をわたしは喜び歌う
- 5 主よ、あなたのみ業は偉大 // その思いは計り知れない
- 6 心の鈍い者には分からず // 愚かな者には悟れない
- 7 悪人が草のようにはびこり、不法を行うすべての者が栄えても // 彼らはとこしえに滅び去る
- 8 主よ、永遠に // あなたは高く挙げられる
- 9 主よ、あなたの敵は、たしかにあなたの敵は滅び // 不法を行う者はすべて散らされて行く
- 10 あなたはわたしの頭を野牛の角のように上げ // わたしに新しい油を注がれた
- 11 わたしの目は敵の滅びを見 // わたしの耳は悪を行う者の悲鳴を聞いた
- 12 正しい人はなつめやしのように栄え // レバノンの杉のようにそびえる
- 13 主の家に植えられた人は // わたしたちの神の庭で栄える
- 14 年を経てもなお実を結び // いつも生き生きと生い茂る
- 15 こうして神の正しさが宣べ伝えられる // 神はわたしの岩。神には偽りがない

使徒書 コリントの信徒への手紙二 5章1節～10節

5:1 私たちの地上の住まいである幕屋は壊れても、神から与えられる建物があることを、私たちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住まいです。2 私たちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に望みながら、この地上の幕屋にあって呻いています。3 それを着たなら、裸ではないことになります。4 この幕屋に住む私たちは重荷を負って呻いています。それは、この幕屋を脱ぎたいからではなく、死ぬべきものが命に?み込まれてしまうために、天からの住まいを

上に着たいからです。5 私たちをこのことに適う者としてくださったのは、神です。神は、その保証として霊を与えてくださったのです。6 それで、私たちはいつも安心していています。もっとも、この体を住みかとしている間は、主から離れた身であることも知っています。7 というのは、私たちは、直接見える姿によらず、信仰によって歩んでいるからです。8 それで、私たちは安心してはいますが、願わくは、この体という住みかから離れて、主のもとに住みたいと思っています。9 だから、体を住みかとしていようと、体を離れていようと、ひたすら主に喜ばれる者でありたい。10 私たちは皆、キリストの裁きの座に出てすべてが明らかにされ、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行った仕業に応じて、報いを受けなければならないからです。

福音書 マルコによる福音書 4章26節～34節

4:26 また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が地に種を蒔き、27 夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。28 地はおのずから実を結ばせるのであり、初めに茎、次に穂、それから穂には豊かな実ができる。29 実が熟すと、すぐに鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

30 また、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。31 それは、からし種のようなものである。地に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

33 イエスは、このように多くのたとえで、人々の聞く力に応じて御言葉を語られた。34 たとえを用いずに語ることはなかったが、ご自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された。